

| | |
|------------------|---|
| Title | 『山谷詩集注』を読むために(2) |
| Sub Title | A guide for Shangu Shiji Zhu (山谷詩集注, an annotated edition of Shangu's anthology of poems) (2) |
| Author | 村越, 貴代美(Murakoshi, Kiyomi) |
| Publisher | 慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会 |
| Publication year | 2017 |
| Jtitle | 慶應義塾大学日吉紀要. 言語・文化・コミュニケーション (Language, culture and communication). No.49 (2017.) ,p.103- 131 |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | |
| Genre | Departmental Bulletin Paper |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10032394-20171231-0103 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

『山谷詩集注』を読むために (2)

村越 貴代美

『山谷詩集注』は、宋の黄庭堅撰、任淵注。紹興二十五年（1155）に刊行された。

倉田淳之助注『黄庭堅』¹⁾によると、任淵がもとにした洪炎編『豫章黄先生文集』三十卷（うち卷二から卷十二に詩を取める）の宋本（南宋本）が、三種現存する。

- ①『豫章先生文集』三十卷『外集』十七卷（存文集卷五至卷九，卷十六，卷十七，卷二十，卷二十一，卷二十四至卷二十六，外集卷五至卷九，卷十四，卷十五），内閣文庫蔵。
- ②『豫章黄先生文集』三十卷，『四部叢刊』所収。乾道年間の刊本に宋以後の補版があると考えられている。
- ③『豫章先生文集』三十卷『外集』十四卷（存文集卷二至卷十四，卷十七至卷十九，外集卷一至卷六），天理大学附属図書館蔵。（②と同一系統）

前稿「『山谷詩集注』を読むために」²⁾の付記に、③天理大学附属図書館蔵本を閲覧した結果を、簡単に報告した。

『四部叢刊』所収本と同一系統だが、作品の配列に若干の違いがあり、巻二の冒頭は「古風二首上蘇子瞻」であった。また『四部叢刊』所収本には割注で「一作……」と校記が見えるが、これが天理大学附属図書館本と一致する。このことから、天理大学附属図書館蔵本のほうが、『四部叢刊』所収本より古い形を残していると思われる。

前回は時間の都合で、全体の作品配列と、任淵注本の巻一の対校のみ行ったが、今回あらためて天理大学附属図書館蔵本を調査したので、報告したい。

1) 倉田淳之助注『黄庭堅』、漢詩大系 18、1967年、のち漢詩選 12、1997年、集英社、「解説」参照。

2) 拙論「『山谷詩集注』を読むために」、慶應義塾大学日吉紀要『言語・文化・コミュニケーション』48号、2016年、63～89頁。

また、任淵『山谷詩集注』二十卷は編年になっているが、当時の資料的な制約もあって、任淵より後に黄蓍『山谷年譜』が慶元五年（1199）に成り、近年は鄭永暁『黃庭堅年譜新編』³⁾もある。『山谷詩集注』二十卷所収の詩が、いつどこで制作されたものか、近年の研究を踏まえて、整理しておきたい。

一、天理大学附属図書館蔵本について

まず天理大学附属図書館蔵本（以下、天理本）の作品の配列であるが、卷二の冒頭が「古風二首上蘇子瞻」で、『四部叢刊』所収本の冒頭の詩「贈別李次翁」がなく、卷一の卷末に「別本以此詩在第二卷之首」と注して、詩の全文を書き込んである。さらに卷二の卷末には、「贈別李次翁」「贈惠洪」「題徐氏書院」「贈石敏若」が注記してある。

天理本には、『四部叢刊』所収本の卷六にある「贈惠洪（吾年六十…）」がない。「贈惠洪」は、同じ詩題の「数面欣羊腓，論詩喜雉膏。眼橫湘水暮，雲獻楚天高。墮我玉塵尾，乞君宮錦袍。月清放舟舫，万里渺雲濤」が『四部叢刊』所収本の卷十一にあり、任淵『山谷詩集注』卷十三の「次韻李任道晚飲鎖江亭」の詩題注に「此詩前有贈惠洪一篇，編次不倫，前輩以為非山谷所作。曾慥詩選記兪秀老事，亦嘗及之。今刪去（此の詩の前に「贈惠洪」一篇があり，編次が乱れており，先人は山谷の作ではないと考えている。曾慥の詩選に兪秀老の事が記されており，またかつてこれについても言及があった。いま削っておく）」とあって、任淵はこれを採らなかつた。この削除された「贈惠洪」一篇が、『四部叢刊』所収本の卷六にある「吾年六十子方半，槁項頂螺忘歲年。韻勝不減秦少觀，氣爽絶類徐師川。不肯低頭拾鄉相，又能落筆生雲煙。脱却衲衫着襄笠，來佐涪翁刺釣船」かと思われる。『四部叢刊』所収本の卷六卷首目次が「題晁以道雪鴈圖 贈惠洪」と一行になっていることから、錯乱している状況が分かる。

釈・惠洪（1071～1128），名は徳洪，号は覺範，俗姓は彭。『冷齋夜話』十卷があり，卷三に，次のようにある。

予自并州還故里，館延福寺。寺前有小溪，風物類斜川，予兒童時戲劇處也。嘗春深独行溪上，作小詩曰，「小溪倚春漲，攘我釣月湾。新晴為不平，約束晚來還。銀梭時澁刺，破碎波中山。整釣背落日，一葉軟紅間。」又嘗暮寒婦見白鳥，作詩曰，「剩水殘山慘澹間，白鷗無事釣舟閑。箇中着我添图画，便似華亭落照湾。」魯直謂予曰，「觀君詩

3) 鄭永暁『黃庭堅年譜新編』，社会科学文献出版社，1997年。

説煙波縹緲処，如陸忠州論国政，字字坦夷。前身非篙師，沙戸種類耶。」有詩，其略曰，「吾年六十子方半，槁項頂螺忘歳年。脱却衲衣着箕笠，来佐涪翁刺釣船。」予嘗对淵材誦之，淵材曰，「此退之贈澄観『我欲収斂加冠巾』換骨句也。」

私は并州から郷里に帰るときに、延福寺に泊まった。寺の前に小川があり、風景は斜川に似ていた。私が子供のころに戯劇をした場所である。かつて春遅くひとりて川をさかのぼったことがあり，「小溪倚春漲，攘我釣月湾。新晴為不平，約束晚来還。銀梭時澆刺，破碎波中山。整釣背落日，一葉軟紅間」という詩を作った。またかつて暮れの寒いころ帰り道で白鳥を見て，「剩水残山慘澹間，白鷗無事釣舟閑。箇中着我添凶画，便似華亭落照湾」という詩も作った。魯直（黄庭堅）が私に「君の詩を見るに、『煙波 縹緲たる処』は，陸忠州が国政を論じるようなもので，どの字も平易である。前身は熟練した船乗りでなければ，中洲で暮らす類の人だったのではないか」と言い，詩を作った。大略は，「吾年六十子方半，槁項頂螺忘歳年。脱却衲衣着箕笠，来佐涪翁刺釣船（吾は年六十子方半は，槁項頂螺歳年を忘る。衲衣を脱却して箕笠を着，来りて涪翁が釣船に刺すを佐けよ）」というもので，私はこれを淵材に暗誦して聞かせたことがあった。淵材は，「これは退之（韓愈）が澄観に贈った『我欲収斂加冠巾（我は欲す斂を取め冠巾を加うるを）』を換骨した句です」と言った。

「陸忠州」は，唐代の陸倕のことか。王安石に「陸忠州」詩があり，「英英陸中州，学問輔明智」の句がある。陸倕は，韓愈が「与祠部陸員外書」を出して，李紳ら十名を「或文或行，皆出群之才」と推薦した人。「涪翁」は，黄庭堅の晩号。

任淵注にいう「曾慥詩選記愈秀老事，亦嘗及之」は不詳。曾慥（？～1155または1164）には『宋百家詩選』があったが，散逸か。「愈秀老」とは，金華の愈紫芝（字は秀老）で，王安石と親しかった。黄庭堅の「題洪駒父家江千秋老図」にも「金華愈秀老」の名前が見える。

また天理本には，『四部叢刊』所収本の卷十一にある「題徐氏書院（学書但学…）」がなく，「太平州作」の詩題で「欧靚腰支柳一渦，小梅催拍大梅歌。舞余片片梨花雨，奈此当塗風月何」を載せる。この詩の次の「贈石敏若」詩もなく，「贈弹琴妓楊姝」の詩題で「千古人心指下伝，楊姝閑処更嬋娟。不知心向誰辺切，彈作南風欲断絃」を載せる。黄庭堅の『外集』卷十七に，「太平州作二首」があり，詩題注に「黄芘有家藏山谷真蹟，前一首題云戲作観舞絶句奉呈功甫兄。片片梨花雨作細點梨花雨（黄芘に家藏の山谷真蹟があり，前一首の題に「戲作観舞絶句奉呈功甫兄」という。「片片梨花雨」は「細點梨花雨」に作

る)」とある。詩は、文字にやや異同があり、其一「欧靚腰支柳一渦，小梅催拍大梅歌。舞余片片梨花雨，奈此当塗風月何」，其二「千古人心指下伝，楊姝煙月過年年。不知心向誰辺切，彈尽松風欲斷絃」とする。蘇軾に「答子勉三首」があり、其三が「欧倩腰支柳一渦，小梅催拍大梅歌。舞余片片梨花落，争奈当塗風物何」で、詩題注に「他集互見詩」とあり、これも混乱している。

天理本は洪炎編『豫章黄先生文集』三十巻中の詩の部分、巻二から巻十二を存するが、欠葉がある。『四部叢刊』所収本の巻数と葉数で示すと、以下の部分がない。

巻三 第十五葉・第十六葉

巻四 第四葉

巻六 第二葉・第三葉

巻九 第一葉・第十八葉～第二十二葉

巻十 第一葉～第三葉

巻九の巻末と巻十の巻首が欠けて、この二巻の間に『外集』がはさまっており、ここがとくに乱れている。天理本の『外集』の版心は「後黄一」のようになっており、「外集」を「後集」としている。任淵は「目錄附年譜」で、のちに「正集」「内集」と呼ばれる『豫章（黄）先生文集』の詩集部分を「豫章前集」としており、任淵の当時は「前集」「後集」とも呼ばれていたことが確認できる。

天理本と『四部叢刊』所収本とで異なる箇所を、任淵注本をもとに対照表にした。前稿の目次対照表とあわせて参照されたい。

詩の本文で大きく違う箇所は、『四部叢刊』所収本の巻七の「瓊芝軒」の長い注で、「子瞻詩所記胡道士，玉芝一名瓊田草者，俗号其葉為唐婆鏡，葉底開花，故号羞天花。以予考之，其实本草之鬼臼也。歳生一白，如黄精而堅瘦，滿十二歳可為藥。就土中生根，取一白，勿令大本知也。煮麩如餠鈍皮，裹一白吞之，数日不飢。啗三白可辟穀也。黄龍山老僧多採而斷食，令人体臞而神王。今方家所用鬼臼，乃鬼灯檠耳。如蜀人用鬼箭，但用一草根，不知何物也。鎮陽趙州間，道傍叢生三羽者，真鬼箭。俗医用藥如此，而責古方不治病，可勝歎哉。因論玉芝，故并記之以遺胡道士。道士胡君洞微，卓君玘之弟子。卓君之時，欲崇飾宮觀，而俗縁薄，規模甚遠而不成就。及胡君而官殿崇成，便齋曲房，松竹蒼蔚，觀其軒窓開塞，宜冬而愜夏，智慮通物者也。又好文多芸，能治賓客具，至者忘歸。此東坡先生所以每至而留連者歟」が、「次蘇子瞻和李太白潯陽紫極宮感秋詩韻追懷太白酒瞻」詩の後ろについている。任淵『山谷詩集注』は巻十七の「次蘇子瞻和李太白潯陽紫極宮感秋詩韻追懷太白酒瞻」の注として、「山谷此詩原有跋云，子瞻詩所記…」と載せるが、内容からいっ

『山谷詩集注』を読むために (2)

【天理本と四部叢刊本の違い】

| 任淵注本 | 天理本 | 四部叢刊本 | 詩題 (任淵注本) |
|--------|---------|-------------|-----------------|
| 卷一 1 | 卷二「古詩」1 | 卷二「古詩」30 | 古詩二首上蘇子瞻 |
| 卷一 3 | 欠葉 | 卷九「律詩」45 | 次韻王稚川客舍二首 |
| 卷一 12 | なし | 卷二「古詩」1 | 贈別李次翁 |
| 卷三 19 | 欠葉 | 卷九「律詩」52 | 戲咏猩猩毛筆二首 |
| 卷三 19 | 欠葉 | 卷九「律詩」53 | 戲咏猩猩毛筆二首 |
| 卷四 2 | 欠葉 | 卷三「古詩」25 | 次韻答邢惇夫 |
| 卷四 5 | 欠葉 | 卷三「古詩」27 | 送謝公定作竟陵主簿 |
| 卷四 7 | (一部欠葉) | 卷三「古詩」28 | 贈送張叔和 |
| 卷五 7 | 欠葉 | 卷九「律詩」39 | 從張仲謀乞蠟梅 |
| 卷五 9 | 欠葉 | 卷三「古詩」26 | 次韻張仲謀過醴池寺齋 |
| 卷七 8 | 欠葉 | 卷九「律詩」59 | 題郭熙山水扇 |
| 卷七 9 | 欠葉 | 卷九「律詩」58 | 題惠崇画扇 |
| 卷七 15 | 欠葉 | 卷九「律詩」60 律詩 | 題劉將軍扇二首 |
| 卷九 10 | 欠葉 | 卷九「律詩」40 | 乞桃花二首 |
| 卷九 12 | 欠葉 | 卷九「律詩」41 | 寄杜家父二首 |
| 卷九 13 | 欠葉 | 卷九「律詩」42 | 王才元舍人許牡丹求詩 |
| 卷九 14 | 欠葉 | 卷九「律詩」43 | 謝王舍人翦状元紅 |
| 卷九 16 | (一部欠葉) | 卷四「古詩」2 | 次韻子瞻送李彥 |
| 卷九 19 | (一部欠葉) | 卷四「古詩」4 | 次韻子瞻以紅帶寄王宣義 |
| 卷九 22 | 欠葉 | 卷九「律詩」57 | 題子瞻寺壁小山枯木二首 |
| 卷九 28 | 欠葉 | 卷九「律詩」56 | 題伯時天育驃騎圖二首 |
| 卷十 2 | 欠葉 | 卷四「古詩」3 | 次韻子瞻和王子立風雨敗書屋有感 |
| 卷十 4 | 欠葉 | 卷九「律詩」51 | 戲答張秘監饋羊 |
| 卷十 8 | (一部欠葉) | 卷九「律詩」38 | 以天壇靈壽杖送莘老 |
| 卷十 15 | 欠葉 | 卷九「律詩」50 | 憶邢惇夫 |
| 卷十一 2 | 欠葉 | 卷九「律詩」44 | 寺齋睡起二首 |
| 卷十一 4 | 欠葉 | 卷九「律詩」46 | 同元明過洪福寺戲題 |
| 卷十一 5 | 欠葉 | 卷九「律詩」47 | 戲答晁深道乞消梅二首 |
| 卷十一 6 | 欠葉 | 卷九「律詩」49 | 以梅饋晁深道戲贈二首 |
| 卷十一 12 | 欠葉 | 卷九「律詩」48 | 題淨因壁二首 |
| 卷十一 13 | 欠葉 | 卷九「律詩」54 | 六月十七日晝寢 |
| 卷十一 14 | 欠葉 | 卷九「律詩」55 | 北窓 |
| 卷十二 10 | 欠葉 | 卷六「古詩」1 | 題小猿叫驛 |
| 卷十三 6 | (一部欠葉) | 卷六「古詩」2 | 題也足軒 |
| 卷二十 1 | なし | 卷十一「律詩」52 | 贈惠洪 |

て「瓊芝軒」の注としたほうが妥当であると思われる。内閣文庫所蔵本では、巻六に「次蘇子瞻和李太白潯陽紫極宮感秋詩韻追懷太白子瞻」があり、この長い注もある。このことから、任淵は内閣文庫所蔵本の系統を底本にしている⁴⁾と思われる。

また巻八の十葉めは「四休居士詩」の序の部分が大きく異なっている。天理本は、

太医孫君昉字景初為士大夫發業多不受謝自号四休居士家有果園花木鬱鬱与予室屋相望
暇日則草逕相尋山谷訪四休之說君曰摘茶淡飯飽即休補破遮寒煖即休三平二滿過即休不
貪不妬老即休山谷曰少欲者不伐之家也知足者安樂之鄉也於是賦三小詩遺其家僮歌之以
侑酒

となっており、「無求…」「富貴…」「一病…」の順に三首を収める。『四部叢刊』所収本は、
太医孫君昉字景初為士大夫發業多不受謝自号四休居士山谷問其說四休笑曰粗茶淡飯飽
即休補破遮寒煖即休三平二滿過即休不貪不妬老即休山谷曰此安樂法也夫少欲者不伐之
家也知足者極樂之國也四休家有三畝園花木鬱鬱客來煮茗伝酒談上都貴遊人間可喜事或
茗寒酒冷賓主皆忘其居与予相望暇則步草徑相尋故作小詩遺家僮歌之以侑酒茗其詩曰
となっており、「富貴…」「無求…」「一病…」の順に三首を収める。序の長さが違う（長い）ために、『四部叢刊』所収本では「四休居士詩」の前の「以酒渴愛江清作五小詩寄廖明略学士兼簡初和父主簿」の最後、天理本が五行で書いてある部分を三行に詰めて書いてある。

内閣文庫所蔵本には「四休居士詩」がないが、任淵注本は『四部叢刊』所収本と序の部分も三首の詩の並びも同じ。

ほか、詩の本文の異同は、天理本と『四部叢刊』所収本とを付き合わせたところ、あまり多くはない。前稿「付記」で触れたように、異同のある箇所については、『四部叢刊』所収本のほうに「一作……」と注記がある（漏れもある）。

従って、天理本と『四部叢刊』所収本とでは、天理本のほうが早い成立で、任淵はこの同一系統のテキストではなく、成立が遅く分類配列も異なる内閣文庫所蔵本の系統のテキストを底本にしたのではないか、という前稿の推定は、変わらない。

『四部叢刊』所収本では「昉」字を忌避して「太上御名」とする。「昉」は南宋の第二代皇帝孝帝（1162年7月24日～1189年2月18日、在位）の立太子時の名。初名は伯琮、後に瑗と改名し、高宗の養子となった際に瑋を賜った。字は元瑰、後に元永と改めた。諡号は紹統同道冠德昭功哲文神武明聖成孝皇帝。『四部叢書』所収本は「慎」「弦」「恒」「玄」

4) 拙論「『山谷詩集注』を読むために」、68～69頁、参照。

なども欠筆になっているが、天理本には欠筆はない。内閣文庫所蔵本も「恒」「觀」「慎」等が欠筆。

宋本（南宋本）には、以上の三点のほかに、主題により分類した『類編増広黄先生大全文集』五十卷（王水照編『宋刊孤本三蘇温公山谷集六種』所収、国家図書館出版社、2012年）が近年見つかった。『四部叢刊』所収本と対校したところ、文字はほぼ同じ。任淵『山谷詩集注』二十巻が四川で刊行されたのが、紹興二十五年（1155）。『類編増広黄先生大全文集』五十巻は少し遅く、孝宗の乾道年間（1165～1173）に刊行された、麻沙本。

つまり編纂の順番としては、詩型による『豫章（黄）先生文集』（天理本、『四部叢刊』所収本、内閣文庫所蔵本）、編年による任淵『山谷詩集注』、テーマによる『類編増広黄先生大全文集』の流れになり、いずれも南宋の孝帝の時代までの成立である。

二、黄庭堅の作品編纂の流れ

任淵が注したのは、のちに「内集」と呼ばれる作品群で、ほかに『外集』や『別集』も刊行され、さらにその注もつけられ、「年譜」やテーマ別の詩集も刊行された。明代になると、全集も編纂された。その途中で、南宋本が日本に伝来した。これらの経過を、まとめておく⁵⁾。

○元豊三年（1080）、山谷三十六歳。江西太和県に赴任する途中、高郵で秦觀を訪れ、自ら編纂した集を見せた。千余篇あった中から三分の二を焼き捨て、残ったものを『焦尾集』『弊帚集』と名づけた。

○元祐三年（1088）、山谷四十四歳。都で秘書省校書郎を務めていた頃、甥の洪炎（1067？～1133、字は玉父）に『退聽堂録』を見せた。原稿が友人の間で読まれたが、刊行はされなかった。洪炎はその後、山谷の作品を集めて『豫章（黄）先生文集』にまとめる。

○紹聖元年（1094）、山谷五十歳。旧法党人が迫害されるに及び、文字獄を恐れて『退聽

5) 倉田淳之助注『黄庭堅』解説（集英社、1997年、初版は1967年）、大野修作「黄庭堅集のテキスト」（『鹿見島大学文科報告』第19号第1分冊、1983年）、笈文生・野村鮎子『四庫提要北宋五十家研究』（汲古書院、2000年）、浅見洋二「黄庭堅詩注の形成と黄魯『山谷年譜』——真蹟・石刻の活用を中心に」（『集刊東洋学』百号 特別記念号、東北大学中国文史哲研究会、2008年）、鄭永暁『黄庭堅全集輯校編年』前言（江西人民出版社、2011年）などを参考にした。拙稿「黄庭堅の詩を学ぶ——姜夔」（『風絮』13号、日本詞曲学会、2016年、1～27頁）でも紹介したが、一部、補足訂正した。

堂録』を改訂した。もとは地方官時代の作もあったが削ったらしい。詳細は不明。

○崇寧元年（1102），山谷五十八歳。長兄黃大臨を訪問する途中で黃龍山に禪師惟清を訪ね、惟清が編纂していた『南昌集』に手を入れる。

○不明，彭山黃氏（不詳），山谷手稿本を蔵する。任淵注に「彭山黃氏」「黃氏本」と見える。

○不明，張淵（字は方回），山谷手稿本（編年）を蔵する。任淵注に「張方回家本」「張淵方回家本」と見え、目次の「醇道得蛤蜊復索舜泉舜泉已酌尽官醞不堪不敢送」詩の注に「方回大父名埴，山谷妹婿也」とある。

○崇寧二年（1103），山谷ら旧法党の文集が禁書となる。

○崇寧四年（1105），山谷卒す，享年六十一歳。

○政和元年（1111），任淵『山谷詩集注』初稿成る。

○靖康元年（1126），禁書が解かれる。

○建炎二年（1128），洪炎，『豫章（黃）先生文集』三十卷，刊行。山谷の旧友胡直孺が知洪州となり，洪炎に出版を勧めた。

○建炎・紹興年間（1127～1162），李彤（李常の子），洪炎が採らなかつた『退聽堂録』以前の詩文，『南昌集』から黃庭堅が棄てた四百余首を集めて，『外集』十四卷とした。胡直孺は李彤・朱敦儒にも編纂を命じていたが，洪炎とは編集方針が異なつた。内外に分ける構想は，『莊子』にならつて山谷が持つていたもの。

○紹興二十五年（1155），任淵『山谷詩集注』二十卷，四川で刊行。

○『類編増廣黃先生大全文集』五十卷，麻沙本，孝宗乾道年間（1165～1173）刊行。

○淳熙九年（1182），黃昈（1150～1212）『別集』成る。

○慶元五年（1199），黃昈『山谷年譜』成る。

○嘉定元年（1208），史容『山谷外集詩注』成る。

○淳裕十年（1250），『山谷外集詩注』修訂本，刊行。

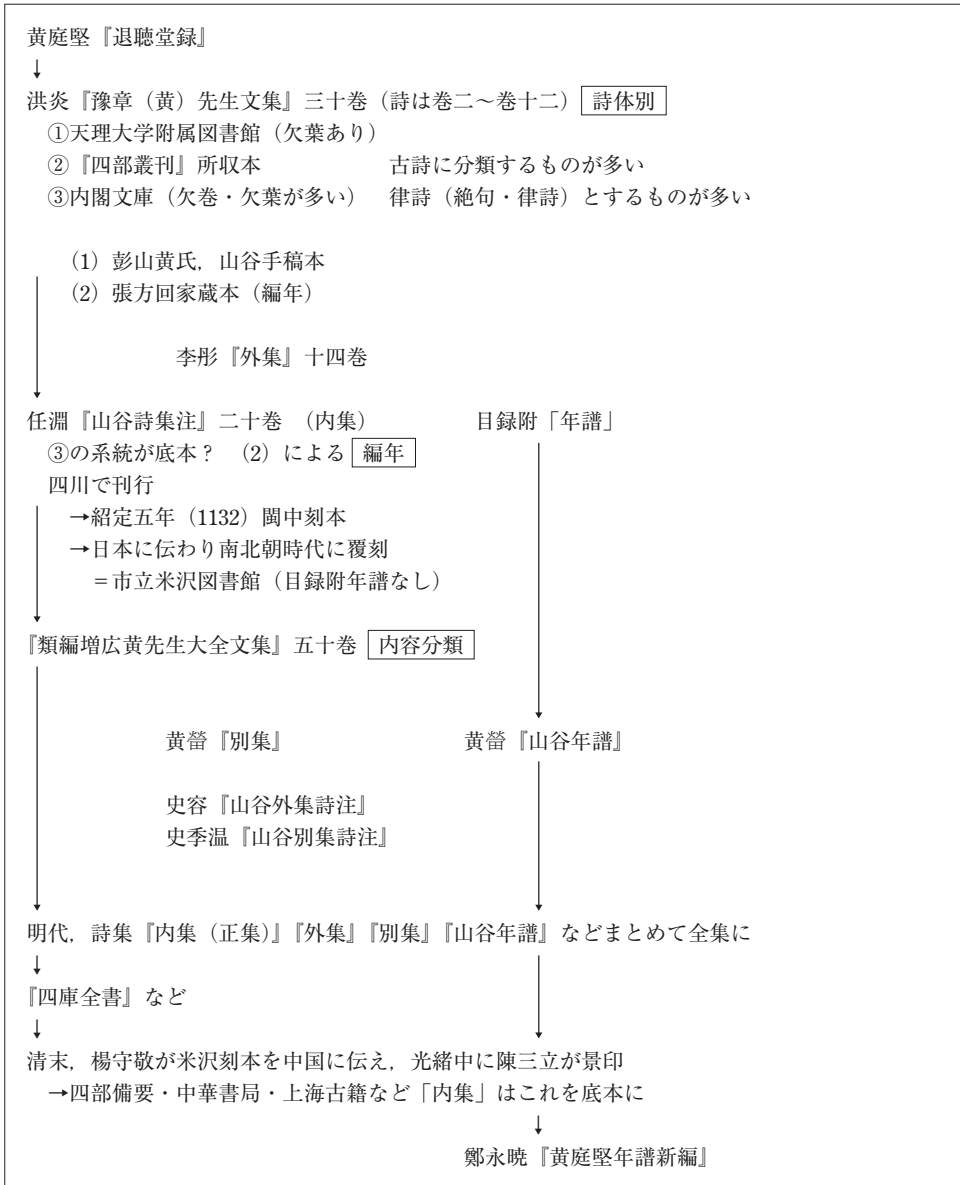
○不明，史季温『山谷別集詩注』成る。

三、『山谷詩集注』所収詩の制作の場所・時・作品

制作した場所を追いつながら、いつ、どの作品を作つたか、整理しておく⁶⁾。附録の地図、参照。作品には、作品番号を付す。例えば0101は、卷一の一番目の作品、の意。

6) 黃昈『山谷年譜』、荒井健注『黃庭堅』卷末の年表、鄭永暁『黃庭堅年譜新編』をもとにしている。

【黄庭堅の作品編纂の流れ】



①北平大名府（今の河北省大名県）

（神宗熙寧五年〔1072〕～）神宗元豐元年（1078），（二十八歳～）三十四歳。国子監教授。

0101 古詩二首上蘇子瞻（2月）

0102 醇道得蛤蚶復索舜泉舜泉已酌尽官醞不堪不敢送

元豐二年（1079），三十五歳。

1802 次韻吳可權題余干県白雲亭

1803 次韻廖明略同吳明府白雲亭宴集

②京師汴京（今の河南省開封市）

神宗元豐三年（1080），三十六歳。年初に北京教授を辞め，京師吏部に赴き，官を知吉州太和県に改められた。

0103 次韻王稚川客舍二首

0104 王稚川既得官都下有盼未婦予戲作林夫人欸乃歌二章与之欸乃湖南歌也

③楚州（今の江蘇省淮安県）

同年秋，汴京から家族三十余人を連れて任地へ行く途中。科挙同年の進士徐積を訪ね，政事について尋ねた。

0105 詠史呈徐仲車

1712 次韻徐仲車喜董元達訪之作南郭篇四韻

1713 次韻仲車為元達置酒四韻

1714 次韻仲車因婁行父見寄之詩

④舒州懷寧県（今の安徽省潜山県）

長江を遡り，皖溪口（皖水が長江に入入口）で泊まった。ここは舒州（今の安徽省安慶県）に属し，舅父李常が提点淮南西路刑獄で，提刑司が舒州にあった。皖溪口で思いがけず李常の船と遭遇し，風雨に阻まれ，十日ほど留まった。十月，舒州懷寧県の三祖山山谷寺を訪ね，山谷道人と号した。十一月二十一日，友人と灊峰に登った。

0107 題山谷石牛洞（10月）

0108 題灊峰閣（11月）

0109 次韻公拱舅

⑤南康軍（治所は今の江西省星子県）

同年十二月、旧彭沢を通った。

0106 宿旧彭沢懷陶令

1701 拝劉凝之画像

0929 姨母李夫人墨竹二首

⑥贛州（治所は今の江西省贛州市）を通った。

神宗元豊四年（1081）春、三十七歳。太和に赴任する。在任中、挙人の考試を南安軍（治所は今の江西省大庾県にある）でおこなった。行く途中で贛州（治所は今の江西省贛州市）を通った。

0110 贛上食蓮有感

⑦吉州太和県（今の江西省泰和県）

神宗元豊四年（1081）～元豊六年（1083）、三十七歳～三十九歳。知吉州太和県。蘇轍が監筠州（治所は今の江西省高安県）に謫されていた。吉州も同じく江西。

0111 秋思寄子由

0112 贈別李次翁

0113 演雅

0114 戲和答禽語

⑧武寧延恩寺

元豊六年（1083）十二月、監德州徳平に移った。太和の官を解かれて、分寧（今の江西省修水県）の家に戻り、徳州へ向かう途中、武寧に寄った。

0115 贈鄭交

⑨德州徳平鎮（今の山東省商河県徳平鎮）

神宗元豊七年（1084）、四十歳。監德州徳平鎮。元豊七年初、金陵を過ぎ、鍾山に王安石を訪ねる。三月、揚州をすぎ泗州に至り、「発願文」を書く。潁昌（治所は今の河南省許昌市）で陳師道と遭い、詩を応酬し、山谷門下となる。汴京にしばらく逗留し、六月から七月に徳州に着く。子の相、この年に生まれる。

0214 題王仲弓兄弟巽亭

- 0215 寄尉氏倉官王仲弓
- 0116 平陰張澄居士隱處三詩
- 0117 留王郎世弼
- 0118 送王郎
- 0119 次韻劉景文登鄴王台見思五首
- 0120 次韻吳宣義三徑懷友
- 0121 送劉季展從軍雁門二首
- 0122 題宛陵張待舉曲肱亭

元豐八年（1085）一月から五月，四十一歳。監德州德平鎮。

- 0201 寄裴仲謀
- 0202 寄黃幾復
- 0203 神宗皇帝挽詞三首
- 0204 王文恭公挽詞二首

元豐八年（1085）三月五日，神宗が没した。哲宗が即位し，宣仁皇太后が摂政となり，新法を次々と廃止し始めた。四月十四日，秘書省校書郎に任命される。五月，司馬光が門下侍郎となった。京師へ向かう。

⑩京師汴京（今の河南省開封市）

元豐八年（1085）九月（任淵注，六～七月），都に到着。醜池寺内の退聽堂に居住。弟の叔達，字は知命，都へ来訪。末弟の仲熊と従弟の仲堪が上京し，来訪した。十月，蘇轍が右司諫となった。十二月，蘇軾が起居舎人として中央に復歸した。

- 0205 謝送礪壑源揀牙
- 0206 以小团龍及半挺贈無咎并詩用前韻為戲
- 0207 和答外舅孫莘老
- 0208 次韻定国聞蘇子由臥病績溪
- 0209 次韻子由績溪病起被召寄王定国
- 0210 次韻李之純少監惠硯
- 0211 送舅氏野夫之宣城二首（12月）

哲宗元祐元年（1086），四十二歳。秘書省校書郎。年初，蘇軾と初めて会う。春。

- 0930 次韻子瞻子由題憩寂園二首
- 0212 送范德孺知慶州

- 0213 題王黃州墨跡後
- 0301 有惠江南帳中香者戲答六言二首
- 0302 子瞻繼和復答二首
- 0303 有聞帳中香以為熬蝎者戲用前韻二首
- 0304 謝公扨舅分賜茶三首
- 0305 送碧香酒用子瞻韻戲贈鄭彥能
- 0307 顯聖寺庭枸杞
- 0308 次韻子瞻贈王定国
- 0309 次韻張詢齋中晚春
- 0509 次韻張仲謀過醜池寺齋
- 0310 次韻答晁無咎見贈

六月十六日、晁補之・張耒ら九人で学士院考試に参加し、館閣に充てられる。主考官は蘇軾。夏。

- 0311 次韻答張文潛惠寄
- 0312 同錢志仲飯籍田錢孺文官舍
- 0313 次韻曾子開舍人游籍田載荷花歸
- 0314 送劉士彥赴福建轉運判官

七月初、蘇軾・韓川らと西太一宮へ行き、王安石の題壁詩を見て次韻する。王安石はすでに没していた。九月、蘇軾が翰林学士となった。秋。

- 0315 次韻韓川奉祠西太一宮四首
- 0316 次韻王荊公題西太一宮壁二首
- 0317 有懷半山老人再次韻二首
- 0318 和答錢穆父詠猩猩毛筆
- 0319 戲詠猩猩毛筆二首
- 0401 奉和文潛贈無咎篇末多以見及以既見君子云胡不喜為韻
- 0402 次韻答邢惇夫
- 0403 和邢惇夫秋懷十首
- 0404 謝公定和二范秋懷五首邀予同作
- 0405 送謝公定作竟陵主簿
- 0407 贈送張叔和
- 0408 送顧子敦赴河東三首

- 0501 司馬文正公挽詞四首
 0306 送鄭彥能宣德知福昌縣
 0502 次韻子瞻武昌西山
 0503 子瞻詩句妙一世乃云效庭堅體蓋退之戲效孟郊樊宗師之比以文滑稽耳恐後生不解
 故次韻道之

十月，神宗實錄院檢討官・集賢校理に任命される。冬。

- 0504 柳閱展如蘇子瞻甥也其才德甚美有意於學故以桃李不言下自成蹊八字作詩贈之
 0505 戲詠蠟梅二首
 0506 蠟梅
 1913 短韻奉乞蠟梅
 0507 從張仲謀乞蠟梅
 0508 賈天錫惠寶薰乞詩予以兵衛森面戟燕寢凝清香十字作詩報之
 1004 戲答張秘監饋羊
 0618 劉晦叔洮河綠石研
 0619 以团茶洮州綠石研贈無咎文潛
 0620 謝王仲至惠洮州礪石黃玉印材

元祐二年（1087），四十三歳。秘書省兼史局。正月十八日，著作佐郎に除せられる。十二月二十八日，趙挺之が蘇軾を弾劾し，黄庭堅にも及ぶ。この年，蘇軾・李公麟・秦觀・張耒・李之儀ら十六人が王晋卿の西園にて会し，佳話として伝えられる。

- 0601 常父惠示丁卯雪十四韻謹同韻賦之
 0602 詠雪奉呈広平公
 0603 次韻宋楙宗僦居甘泉坊雪後書懷
 0604 和答子瞻和子由常父憶館中故事
 0605 双井茶送子瞻
 0606 和答子瞻
 0607 子瞻以子夏丘明見戲聊復戲答
 0608 省中烹茶懷子瞻用前韻
 0609 以双井茶送孔常父
 0610 常父答詩有煎点徑須煩綠珠之句復次韻戲答
 0611 戲呈孔毅父
 0612 謝黄從善司業寄惠山泉

- 0614 見諸人唱和醖醖詩輒次韻戲詠
0615 次韻秦觀過陳無己書院觀鄙句之作
0616 陳留市隱
0617 晁張和答秦觀五言予亦次韻
0621 次韻文潛同遊王舍人園
0622 臥陶軒
0623 次韻寄晁以道
0624 次以道韻寄范子夷子默
0625 僧景宣相訪寄法王航禪師
0626 次韻子瞻送顧子敦河北都運二首
0627 慈孝寺餞子敦席上奉同孔經父八韻
0628 次韻張昌言給事喜雨
0701 送李德素婦舒城
0702 詠李伯時摹韓幹三馬次蘇子由韻簡伯時兼寄李德素
0703 次韻子瞻和子由觀韓幹馬因論伯時画天馬
0704 次韻答王晉中
0705 子瞻去歲春侍立邇英子由秋冬間相繼入侍作詩各述所懷予亦次韻四首
0706 再次韻四首
0707 次韻子瞻題郭熙画山
0708 題郭熙山水扇
0709 題惠崇画扇
0710 題鄭防画夾五首
0711 戲題小雀捕飛虫画扇
0712 題画孔雀
0713 睡鴨
0714 小鴨
0715 題劉將軍鴈二首
0716 題劉將軍鵝
0717 題晁以道雪鴈图
0613 次韻奉酬劉景文河上見寄
0718 次韻子瞻題無咎所得与可竹二首粥字韻戲嘲無咎人字韻詠竹

- 0719 次韻文潛休沐不出二首
- 0723 次韻錢穆父贈松扇
- 0724 戲和文潛謝穆父松扇
- 0720 奉同子瞻韻寄定国
- 0721 次韻王定国揚州見寄
- 0722 往歲過広陵值早春嘗作詩云春風十里珠簾卷髣髴三生杜牧之紅藥梢頭初繭栗揚州
風物鬢成糸今春有自淮南來者道揚州事戲以前韻寄王定国二首
- 0725 謝鄭闕中惠高麗画扇二首
- 0801 次韻王炳之惠玉版紙
- 0802 謝王炳之惠石香鼎
- 0803 次韻柳通叟寄王文通
- 0804 送張天觉得登字
- 0805 次韻徐文将至国門見寄二首
- 0806 博士王揚休碾密雲龍同事十三人飲之戲作
- 0807 答黄冕仲索煎双井并簡揚休
- 0808 再答冕仲
- 0809 戲答陳元興
- 0810 再答元興
- 0811 次韻冕仲考進士試卷
- 0813 次韻游景叔聞洮河捷報寄諸将四首
- 0814 和游景叔月報三捷
- 0815 次韻崔伯易席上所賦因以贈行二首
- 0816 同子瞻韻和趙伯充困練
- 0817 戲答趙伯充勸莫学書及為席子沢解嘲
- 0818 謝景叔惠冬笋雍酥水梨三物
- 0819 再答景叔
- 0820 次韻幾復和答所寄
- 0821 寄上叔父夷仲三首
- 0406 奉答謝公定与榮子邕論狄元規孫少述詩長韻

元祐三年（1088），四十四歲。秘書省兼史局。正月十七日から三月一日まで，蘇軾・孫覺・孔文舉ら知貢挙，黄庭堅・李公麟ら試験官。四月から六月，潰瘍性の病気になる。こ

の年、自ら詩を編纂し、醜池寺の退聽堂に居していたため『退聽堂録』と名づける。秦觀・張耒・晁補之らも館職にあり、「蘇門四学士」の名が広まった。

- 0901 考試局与孫元忠博士竹間對窓夜聞元忠誦書声調悲壯戲作竹枝歌三章和之
- 0902 觀伯時画馬礼部試院作
- 0903 題伯時画揩痒虎
- 0904 題伯時画觀魚僧
- 0905 題伯時画頓塵馬
- 0906 題伯時画嚴子陵釣灘
- 0907 題伯時画松下淵明
- 0908 出礼部試院王才元惠梅花三種皆妙絕戲答三首
- 0909 王立之承奉詩報梅花已落尽次韻戲答
- 0910 乞姚花二首
- 0912 寄杜家父二首
- 0913 王才元舍人許牡丹求詩
- 0914 謝王舍人翦状元紅
- 1001 次韻答曹子方雜言
- 0915 戲答陳季常寄黃州山中連理松枝二首
- 0916 次韻子瞻送李豸
- 0917 次韻宋楙宗三月十四日到西池都人盛觀翰林公出遊
- 0918 韓獻肅公挽詞三首
- 0919 次韻子瞻以紅帶寄王宣義
- 0920 聽宋宗儒摘阮歌
- 0921 自門下後省歸臥醜池寺觀盧鴻草堂圖
- 0922 題子瞻寺壁小山枯木二首
- 0923 題子瞻枯木
- 0924 和子瞻戲書伯時画好頭赤
- 0812 王聖美三子補中広文生
- 0925 詠伯時画太初所獲大宛虎背天馬図
- 0926 詠伯時画馮奉世所獲大宛象龍図
- 0927 題竹石牧牛
- 0928 題伯時天育驃騎図二首

- 1002 次韻子瞻和王子立風雨敗書屋有感
- 1003 嘲小德
- 1005 戲答王定国題門兩絕句
- 1007 呈外舅孫莘老二首
- 1008 以天壇靈壽杖送莘老
- 1006 清人怨戲笑徐庾慢体三首
- 1009 戲答俞清老道人寒夜三首
- 1010 秘書省冬夜宿直寄懷李德素
- 1011 歲寒知松柏
- 1012 東觀讀未見書
- 1013 被褐懷珠玉
- 1014 歎塞來享
- 1015 憶邢惇夫
- 1016 次韻秦少章晁適道贈答詩
- 1017 次韻答秦少章乞酒

元祐四年（1089），四十五歲。秘書省兼史局。三月，弟の非熊卒，享年三十六。蘇軾が杭州の知事となり，七月に着任した。七月二十六日，集賢校理に除せられる。この年，秦觀の弟ふたり（秦觀・秦觀）が黃庭堅に学ぶ。居室を「寄寂齋」と名づける。秦觀とは元豊三年以来の交流。

- 1101 頤軒詩六首
- 1102 寺齋睡起二首
- 1103 記夢
- 1104 同元明過洪福寺戲題
- 1118 出城送客過故人東平侯趙景珍墓
- 0911 效王仲至少監詠姚花用其韻四首
- 1105 戲答晁深道乞消梅二首
- 1106 以梅饋晁深道戲贈二首
- 1107 次韻子実題少章寄寂齋
- 1108 次韻孫子実寄少游
- 1109 戲書秦少游壁
- 1110 贈秦少儀

1112 題浄因壁二首

1111 送少章從翰林蘇公余杭

1113 六月十七日昼寝

1114 北窓

1115 趙子充示竹夫人詩蓋涼寝竹器憇臂休膝似非夫人之職予為名曰青奴并以小詩取之
二首

1116 范蜀公挽詞二首

1117 宗室公寿挽詞二首

1119 黄潁州挽詞三首

1120 樂寿县君呂氏挽詞二首

元祐五年（1090），四十六歳。秘書省兼史局。舅父李常，岳父孫覚が相繼いで亡くなる。

元祐六年（1091），四十七歳。秘書省兼史局。三月四日，趙彥若・范祖禹らと『神宗実録』を献上した。三月十四日，修史に功あったとして起居舎人に任命されるも，反対にあつて取り止めとなった。六月十八日，母の李氏が没した。享年七十二。

⑪京師から分寧へ（汴京→揚州→蕪湖→分寧）

八月，喪に服するため分寧に帰郷。九月，揚州に到る。十月二十一日，蕪湖に到る。十二月二十日，弟の叔達と李常の墓で哭祭し，墓柱に題する。

⑫分寧（今の江西省修水县）

元祐七年（1092），四十八歳。正月八日，母を家へ連れて帰る。五月十四日，叔父の黄廉が給事中の現職のまま京師で没する。享年五十九。

元祐八年（1093），四十九歳。二月一日，母と弟非熊，黄庭堅の二夫人を合葬する。墓の近くに住み，「永思堂」と名づけ，供養する。七月二十七日，秘書丞，提点明道宮に除せられ，国史編修官を兼ねる。九月，喪があけ，編修官を辞退し，母の墓のそばに住むことを乞う。九月，叔父黄廉を埋葬する。

1121 叔父給事挽詞十首

⑬分寧から京師へ（分寧→洪州→南康軍→彭沢→池州→開封府）

元祐九年，紹聖元年（1094），五十歳。

1612 贈石敏若

三月、知宣州（今の安徽省宣城県）、鄂州（今の湖北省武昌県）に除せられ、四月、宣城へ赴任するため分寧を出発、五月、洪州（今の江西省南昌市）に着く。六月十八日、管勾亳州（今の安徽省亳県）明道宮に任命され、開封府境内に住むことを命じられた。『神宗実録』に不満な勢力から査問を受けるのに便利のため。七月初、蘇軾が「先朝を譏刺した」として惠州（今の広東省）へ流されることになり、途中、黄庭堅と三日間会って別れを惜しんだ。この後、蘇軾と再び会うことはなかった。七月十二日、南康軍（今の江西省星子県）に着く。八月八日、彭沢（今の江西省彭沢県）に着く。九月、池州（今の安徽省貴池県）を過ぎる。兄の黄大臨、弟の叔猷・叔達、子の朴・相、孫の傑らが同行していたが、相談して兄弟は蕪湖に住むことにした。十月、長兄の黄大臨と開封府に着く。

⑭開封府陳留（今の開封県陳留鎮）

十一月、開封府陳留に着き、浄土院に住む。『退聽堂集』を編纂する。数回にわたり、『神宗実録』について尋問を受ける。

1122 寂住閣

1123 深明閣

十二月二十七日、『神宗実録』で新法を非難した罪で、涪州（今の四川省涪陵県）の別駕に流されることになり、黔州（今の四川省彭水県）に安置されることになった。

⑮開封府から黔州へ

紹聖二年（1095）、五十一歳。正月、貶所へ出発。黄大臨が同行する。四月二十三日、黔州に着く。開元寺に寓居する。黄大臨は二ヶ月ほどいて、六月十二日に黔州を離れた。

1201 竹枝詞二首

1202 夢李白誦竹枝詞三疊

1203 和答元明黔南贈別

⑯黔州（今の四川省彭水県）

紹聖三年（1096）、五十二歳。四月、蘇軾が海南島に流された。五月六日、弟の叔達が自分と黄庭堅の家族を連れて黔州へ来た。

1204 題驢瘦嶺馬舖（知命）

1205 行次巫山宋楸宗遣騎送折花厨醞（知命）

- 1206 次韻林宗送別二首 (知命)
- 1207 戲答劉文学 (知命)
- 1208 外姪李光祖往見尚垂髫今觀寄嗣直小詩已可愛因次韻 (知命)
- 1209 上南陵坡 (知命)
- 1210 題小猿叫駟 (知命)
- 1211 馬上口号呈建始李令 (知命)
- 1212 次浮塘駟見張施州小詩次其韻 (知命)
- 1213 將次施州先寄張十九使君三首 (知命)
- 1214 和張仲謀送別二首 (知命)
- 1215 次韻答清江主簿趙彥成 (知命)
- 1216 宋林宗寄夔州五十詩三首 (知命)
- 1217 題蘇若蘭回文錦詩圖

紹聖四年 (1097), 五十三歳。十二月二十三日, 表兄の張向が提挙夔州路常平となり, 黔州は夔州路の管轄だったため, 避けて戎州安置になった。

- 1218 次韻楊明叔四首
- 1219 再次韻
- 1220 謫居黔南十首
- 1605 蟻蝶図

⑰戎州 (今の四川省宜賓市)

紹聖五年, 元符元年 (1098), 五十四歳。正月, 黔州を離れる。三月中に涪陵 (今の四川省彭水県) に着き, 北岩寺で遊ぶ。程頤が謫居していた。六月, 戎州に着く。南寺無等院に寓居する。居室を「槁木庵」「死灰庵」と名づけた。八月三十日, 詩論「胸山雜詠」を書く。

1221 贈黔南賈使君

元符二年 (1099), 五十五歳。初春に城南に移り, 「任運堂」と名づける。九月, 弟の叔達が成都へ行き, 翌年二月に戻る。文同の内侄の黄斌老がいて墨竹画を善くするので, 交流する。

- 1222 次韻雨糸雲鶴二首
- 1223 從斌老乞苦笋
- 1224 次韻黄斌老所画横竹

- 1225 次韻謝黃斌老送墨竹十二韻
- 1226 用前韻謝子舟為予作風雨竹
- 1227 再用前韻詠子舟所作竹
- 1228 戲詠子舟画兩竹兩鸚鵡
- 1304 次韻黃斌老晚游池亭二首
- 1301 次韻答斌老病起獨游東園二首
- 1302 又和二首
- 1303 又答斌老病愈遣悶二首
- 1305 戲答史應之三首
- 1306 題也足軒
- 1307 寄題榮州祖元大師此君軒
- 1308 答李任道謝分豆粥

元符三年（1100），五十六歳。正月，哲宗が没し，徽宗が即位した。三月十三日，弟の叔達が江南へ帰るも，途中，荊州で亡くなる。五月，宣徳郎・監鄂州（今の湖北省武昌県）在城塩税に任命される。五月，大赦令が出された。六月，蘇軾が内地帰還を許され，海南島を出発した。七月，青神（今の四川省青神県）に舟を浮かべ，姑母張氏を訪ねる。十月，奉議郎・簽書寧国軍（今の安徽省宣城県）節度判官に任命される。青神から眉山へ行き，蘇洵の墓に詣でる。十一月，戎州に帰る。弟の叔達が亡くなったことを知る。知舒州（今の安徽省潜山県）に任命される。十二月，四川を離れる。途中，江南（今の四川省江安県）で子の相，石諒の娘と結婚。

- 1309 贈知命弟離戎州
- 1310 姪拒隨知命舟行
- 1311 次韻奉答文少激紀贈二首
- 1312 次韻文少激推官祈雨有感
- 1313 次韻李任道晚飲鎖江亭
- 1314 再次韻兼簡履中南玉三首
- 1315 次韻任道食荔支有感三首
- 1316 廖致平送綠荔支為戎州第一王公權荔支綠酒亦為戎州第一
- 1317 謝楊履道送銀茄四首
- 1318 送石長卿太学秋補
- 1319 次韻少激甘露降太守居桃葉上

- 1320 借景亭
- 1321 戲贈家安国
- 1322 次韻楊君全送酒
- 1323 次韻楊君全送春花
- 1324 謝楊景山送惠酒器
- 1325 史彦升送春花
- 1326 題石恪画嘗醋翁
- 1327 謝応之
- 1401 走筆謝王朴居士拄杖
- 1402 戲答王居士送文石
- 1403 次韻楊明叔見餞十首
- 1404 次韻石七三六言七首

⑱江南（今の四川省江安县）から江陵（今の湖北省江陵县）へ

徽宗建中靖国元年（1101），五十七歳。正月，江南を出発。三月，峡州（今の湖北省宜昌市）に着く。奉議郎・権知舒州が発令される。四月，江陵（今の湖北省江陵县）に着き，沙市（今の湖北省沙北市）に居住。吏部員外郎が発令されるも，病気や弟の喪に服する等を理由に辞退し，太平州（今の安徽省当涂県）か無為軍（今の安徽省無為県）への着任を願ひ出て，荊州（江陵のこと）で待つ。七月，蘇軾が没した。

- 1405 万州太守高仲本宿約游岑公洞而夜雨連明戲作二首
- 1406 万州下巖
- 1407 又戲題下巖
- 1408 戲題巫山県用杜子美韻
- 1409 和王観復洪駒父謁陳無己長句
- 1709 跋子瞻和陶詩
- 1525 次韻聞善
- 1502 次韻益修四弟
- 1503 以峡州酒遺益修復繼前韻
- 1504 謝益修四弟送石屏
- 1810 顔徒貧楽斎二首
- 1413 次韻答黄与迪

- 1414 次前韻謝与迪惠所作竹五幅
1505 戲答王觀復醖醑菊二篇
1506 戲答王子予送凌風菊二首
1507 謝王子予送橄欖
1508 以椰子小冠送子予
1509 呈楊康国
1510 又戲呈康国
1511 次韻馬荊州
1512 和中玉使君晚秋開天寧節道場
1513 入窮巷謁李材叟翹叟戲贈兼簡田子平三首
1501 戲簡朱公武劉邦直田子平五首
1529 戲贈米元章二首
1411 病起荊江亭即事十首
1410 以古銅壺送王觀復
1514 次韻答馬中玉三首
1515 次韻中玉早梅二首
1516 次韻中玉水仙花二首
1517 王充道送水仙花五十枝欣然会心為之作詠
1518 吳君送水仙花并二大本
1519 劉邦直送早梅水仙花四首
1520 謝檀敦信送柑子
1521 贈李輔聖
1522 和高仲本喜相見
1523 戲詠煖足餅二首
1524 戲呈聞善二兄
1526 謝答聞善二兄九絕句
1527 戲呈聞善
1528 題子瞻画竹石
1607 次韻向和卿行松滋县与鄒天錫夜語南極亭二首

①荊州（今の湖北省江陵県）から鄂州（今の湖北省武昌県）へ

『山谷詩集注』を読むために (2)

崇寧元年(1102), 五十八歳。正月二十三日, 荊州を出発する。荊州滞在中に書いた「承天禪院塔記」が筆禍事件の原因となる。二十六日, 岳州に着き, 岳陽樓にのぼる。二月六日, 通城(今の湖北省通城県)へ行き, 黄龍山に入り, 靈源惟清と会う。惟清のために初期の作品集『南昌集』に手を入れる。分寧へ行き, 四月, 萍郷省の兄黄大臨を訪ねる。五月, 江州(今の江西省九江市)に着き, 廬山に遊ぶ。六月九日, 太平州(治所は今の安徽省当塗県)の知事に着任したが, 九日で免職となった。九月, 鄂州に着く。

1601 次韻答高子勉十首

1602 贈高子勉四首

1603 再用前韻贈子勉四首

1604 荊南簽判向和卿用予六言見惠次韻奉酬四首

1606 謝胡臧之送栗鼠尾画維摩二首

1608 戲答荊州王充道烹茶四首

1609 雨中登岳陽樓望君山二首

1610 自巴陵略平江臨湘入通城無日不雨至黄龍奉謁清禪師繼而晚晴邂逅禪客戴道純歎語作長句呈道純

1611 題徐氏書院

1613 題胡逸老致虚庵

1614 題蓮華寺

1615 衝雨向万載道中得逍遙觀遂戲題

1616 題竹尊者軒

1617 送密老住五峰

1618 新喻道中寄元明用觴字韻

1704 次子瞻和李太白潯陽紫極宮感秋詩韻追懷太白子瞻

1705 瓊芝軒

1706 龜穀軒

1707 秋声軒

1708 戲效禪月作遠公詠

1702 湖口人李正臣蓄異石九峰東坡先生名曰壺中九華并為作詩後八年自海外歸湖口石已為好事者所取乃和前篇以為笑寔建中靖国元年四月十六日明年当崇寧之元五月二十日庭堅繫舟湖口李正臣持此詩來石既不可復見東坡亦下世矣感嘆不足因次前韻

- 1703 罷姑熟寄元明用觴字韻
- 1715 武昌松風閣
- 1716 次韻文潛
- 1717 和文潛舟中所題
- 1718 題君子泉
- 1719 宿黃州觀音院鍾樓上
- 1720 謝何十三送蟹
- 1721 又借答送蟹韻并戲小何
- 1722 代二螯解嘲
- 1723 又借前韻見意
- 1724 次韻文潛立春日三絕句
- 1725 再次前韻

②鄂州（今の湖北省武昌県）から宜州（今の広西壮族自治区宜山県）へ（鄂州→漢陽→長沙）。

崇寧二年（1103），五十九歳。四月，蘇軾父子，黃庭堅，秦觀らの文集が禁書となった。十一月，「承天禪院塔記」で国政を誹ったとして，宜州（今の広西チワン族自治区宜山県）に流罪の命を受けた。十二月に鄂州を出発。漢陽（今の湖北省武昌県）で友人らに見送られる。年末に長沙に着く。

- 1801 夢中和觴字韻
- 1804 病来十日不举酒二首
- 1805 題小景扇
- 1806 鄂州南楼書事四首
- 1807 南楼画閣觀方公悦二小詩戲次韻
- 1808 庭堅以去歳九月至鄂登南楼歎其制作之美成長句久欲寄遠因循至今書呈公悦
- 1809 養鬪鷄
- 1811 和涼軒二首
- 1812 題默軒和遵老
- 1813 次韻文安国紀夢
- 1814 寄賀方回
- 1816 鄂州節推陳榮緒惠示沿檄崇陽道中六詩老懶不能追韻輒自取韻奉和

『山谷詩集注』を読むために (2)

- 1817 陳榮緒惠示之字韻推獎過實非所敢當輒次高韻三首
1901 德孺五丈和之字詩韻難而愈工輒復和呈可發一笑
1902 次韻德孺新居病起
1903 次韻德孺感興二首
1904 次韻德孺惠貺秋字之句
1905 求范子默染鴉青紙二首
1906 謝榮緒惠貺鮮鯽
1907 謝榮緒割饜見貽二首
1908 吳執中有兩鵝為余烹之戲贈
1909 秋冬之間鄂渚絕市無蟹今日偶得數枚吐沫相濡乃可憫笑戲成小詩三首
1910 甯子與追和予岳陽樓詩復次韻二首
1911 和甯子與白鹿寺
1912 謝人惠貓頭笋
1914 以酒渴愛江清作五小詩寄廖明略學士兼簡初和父主簿
1915 四休居士詩
1916 十二月十九日夜中發鄂渚曉泊漢陽親旧携酒追送聊為短句
1917 次韻陳榮緒同倚鍾樓晚望別後明日見寄之作
1918 過洞庭青草湖
1919 過土山寨
1920 晚泊長沙示秦處度范元實用寄明略和父韻五首
1921 次韻元實病目
1710 題李亮功戴嵩牛圖
1711 追和東坡題李亮功歸來圖
1815 文安國挽詞二首

崇寧三年（1104），六十歲。潭州（今の湖南省長沙市）から衡州（今の湖南省衡陽市），永州（今の湖南省靈陵縣），全州（今の広西省全州県），靜江（今の広西省桂林市）を通過して、貶所へ向かう。家族は永州にとどまり、五月十八日に宜州に着く。十二月二十七日、兄の黄大臨が永州から訪ねてきた。

- 1922 勝業寺悦亭
1923 離福巖
1924 花光仲仁出秦蘇詩卷思兩國士不可復見開卷絕歎因花光為我作梅數枝及画煙外遠

山追少游韻記卷末

- 1925 題花光画
1926 題花光画山水
1927 所住堂
1928 戲詠高節亭辺山礬花二首
2001 贈惠洪
2002 戲詠零陵李宗古居士家馴鷓鴣二首
2003 李宗古出示謝李道人茗帚杖從蔣彥回乞葬地二頌作二詩奉呈
2004 書磨崖碑後
2005 浯溪図
2006 太平寺慈氏閣
2007 題淡山巖二首
2008 明遠庵
2009 玉芝園
2010 游愚溪
2011 代書寄翠巖新禪師
2012 戲答歐陽誠發奉議謝余送茶歌
2013 到桂州
2014 答許覺之惠桂花椰子茶盃二首
2015 以椰子茶餅寄德孺二首
2016 寄黃龍清老三首

②宜州（今の広西壮族自治区宜山県）

崇寧四年（1105），六十一歳。二月五日，兄の黄大臨を崇寧寺で送別する。三月十五日，最後の弟子となった范寥が成都からやってくる。九月三十日，病没。身辺にいたのは范寥のみで，一切の世話を引き受けた。

- 2017 宜陽別元明用觴字韻
2018 和范信中寓居崇寧遇雨二首
2019 乞鍾乳於曾公袞

（本稿は，平成二十九年度慶應義塾学事振興資金による研究成果の一部である）

【『山谷詩集注』所収詩の制作の場所】

